

第3回 深谷市新庁舎基本計画検討有識者会議 議事録

1. 開催日時 平成27年8月18日(火) 13:30～15:00
 2. 開催場所 深谷市役所本庁舎3階委員会室
 3. 出席者 深谷市新庁舎基本計画検討有識者会議委員
木藤久丹江(木藤税理士事務所)
高野一吉(深谷商工会議所 会頭)
堤洋樹(前橋工科大学 准教授)
葉山香織(アーバンスタイル研究所、ハマヤ建築設計事務所)
松村俊英(建築保全センター 客員研究員)
- 事務局
- 新井進(企画財政部 部長)
飯野勇人(企画財政部 次長)
田嶋英生(企画財政部 公共施設改革推進室 室長)
穂山光昌(企画財政部 公共施設改革推進室 室長補佐)
金井博(企画財政部 公共施設改革推進室 新庁舎整備係長)
玉井一平(企画財政部 公共施設改革推進室 公共施設改革推進係長)
羽二生直之(企画財政部 公共施設改革推進室)
長澤玲(企画財政部 公共施設改革推進室)
白井達雄(株式会社松田平田設計)
熊田義定(株式会社松田平田設計)
荒井恒和(株式会社松田平田設計)

4. 内容

1. 開会

2. あいさつ

(委員長からのあいさつ) 本日は、これまで何度か話し合ってきた「まちづくりと市役所の関わり」について意見を頂戴したい。

3. 議事

《報告事項》

(1) まちづくりに寄与する新市庁舎整備について

事務局：資料-1 から資料-4 の説明。

委員長：特に市民利用スペースについて意見を求めたい。

委員：東京の立川市役所を見てきた。市民が良く使う市民課が正面玄関入ってすぐにあった。以前の正面玄関から長い廊下があり、玄関から奥まった暗い感じがするところに市民課があった頃と比べかなり変わったとの印象が残った。やはり、市民から見てこんなにも変わったと思わせ、良くなったと感じさせることも庁舎建設では大切だと考える。行政機能とは別にテーブルと椅子が幾つもおかれた広い憩いのスペースがあり、ピアノが置いてあった。お昼で誰もいなかったが、ピアノの演奏の音が聞こえた。ピアノを買ったりするのもお金もかかることであるが、深谷市には市民オーケストラもあることだし、その楽団員が発表する場所もないと聞いている。市役所でミニコンサートなど発表する場所を提供して、来庁者に聞かせてはどうか。また、2階、3階のウッドデッキに花壇があって、花が沢山植えられていた。やはり、植物があると心が和むのであった方が良くと思う。

委員：深谷市は、花と緑のまちと言われていて盆栽も有名。管理の問題もあるが、深谷らしさというものをそこに見出したらどうか。また、音楽のイベントも沢山やっている。深谷シネマの蔵の中で演奏すると、ある音楽家の方が日本で2番目に音響が良いとの話を頂いた。街並みと連動してプログラムが組めれば、もっと人の流れが出てくると思われる。

委員長：音楽ホール的なものをつくるかは別として、折角良いものがあるのであれば利用して、休日など利用できれば良い。市民アンケートにも意見が出ているが、庁舎はいつでも利用できることも大切である。セキュリティ上配慮しなくてはならないこともあるが、ハード面に限らず、市民が使える庁舎とすることが大切である。また、市民アンケートの結果として、面白い意見が出ている。「経済性を重視したシンプルで機能的な庁舎」などは、十年前ならば出なかった意見である。

委員：市民アンケートでは、「豪華なものは要らない」とか「デザインよりも経済性、機能性を重視して欲しい」など、自由意見の方が良い意見、大切な意見が出ている。

委員長：市民の意見を、どの様に新庁舎で実現するか是非考えてほしい。

委員：中心市街地活性化整備の真ん中にあるにぎわい通りが、新市庁舎の竣工までに間に合わないと思うが如何なものか。

委員長：資料4の形を作るならば、にぎわい通りの実現が必要不可欠だと考える。

委員：市民アンケートでは、新庁舎の建設においては経済性が重視されているが、駅など周辺の景観と調和した庁舎については重視されていない。市民は割と冷めた見方をされているようだ。

ICT化について意見が出ていることから、どの様な年齢層の方から出ている意見かが気になるところである。

事務局：e-アンケートに答えられる方ですから、パソコンや携帯、スマートフォンなどからの回答に慣れた方だと思われます。

委員：立川市役所は、私も行ったことがある。たしか最寄り駅から離れたところにあったかと思う。例えば、駅から市役所へ向かう途中、お茶を飲みたくなった場合を考えると、市役所でお茶が飲める場所がなければ街中でお店を探したくなるものだ。これが回遊性やにぎわいというものに繋がるのではないだろうか。市役所で完結させてしまうと、街中でお金が落ちなくなってしまう。どこまでの機能を庁舎に入れ込むか、そのバランスが大切である。

委員長：自分もそのように思う。この資料-4で言うところの滞在性・回遊性とは市役所に人を呼び寄せるという意味ではなく、街中に人を呼び寄せるために市役所を利用することを言っている。そのためにも、市役所に入れる機能はある程度に抑えて整備し、あとは街中に投資していただければと考える。

委員：出雲市は黄色い瓦で街が統一されていた。街が良くまとまって、きれいな街並みとなっていた。地元の方の意見や協力も必要だが、市役所周辺（中心市街地活性化地域）でも考えてはどうだろうか。

委員長：この有識者会議での意見としては、あくまで庁舎はシンプルで、最低限、必要とされる機能でまとめていただき、あとは街中に還元していくという流れで考えていただきたい。

（2）新市庁舎建設に係る計画地の有効利用について

事務局：資料-5の説明

委員長：どちらの案を選ぶのではなく、それぞれの案について意見を頂きたい。広場の形を（どうするか）より、広場をどの様に使うかが重要である。駐車場を作るからには有効利用できるものとしてほしい。

委員：配置案①は、にぎわい通りの正面に市庁舎が構えている。アイストップ（人の視線を引き付ける役割を果たす建築物）となり得るが、道路に面しているため圧迫感があるので、間にオープンスペースを設けるか、建物を一部削った形状とするなど検討した方がいい。

委員：災害の時の物品についても、広場に置くのか？

事務局：市庁舎は災害時の避難場所にしていません。しかし、災害時は人が市役所を頼ってくるのが考えられるので配慮が必要と考えています。

委員長：日頃使用していくことを重視し、災害時にも使えることを考えていけば良い。深谷ベースを、市役所に持ってくるというのはどうか。深谷ベースが区画整理事業でその場所を失うのであれば、市庁舎に持って来るのもひとつの考え方である。

委員：深谷ベースはもともと災害時にも使えるように考えてある。

委員長：必要な時に移動できる深谷ベースを広場に持ってくる提案は、あっても良いと考える。

日頃、使っていないといざというとき使えないから、ただ広場をつくるより、普段から使われる広場として整備していただきたい。

事務局：3つの柱のキーワードを参考にご意見頂きたい。

委員長：回遊性を生み出すためにはどうするかという切り口だと思われる。

委員：建物としてのハード面も大切だが、イベントなどソフト面を如何に組立てるかが大切であり、そういったことを想定した設計を考えることが重要である。

委員長：これだけのスペースを占める駐車場をどう整備していくのが気になる。単純に駐車場として整備するのではなく、例えば、イベントに使えるとか有効活用できるものを検討して欲しい。

委員：用途ごとに区画を分けておいて、イベントの際には全体として駐車場利用できるように整備を考えればよいと思う。

委員：周辺から寄せられる市庁舎の駐車場に対する期待は大きいため、できるだけ駐車場を確保したいと考える。大型バスが止められるスペースもあると良い。ただし、駐車場だけではもったいないという意見は理解できる。

委員：資料4では、にぎわい通りからは、歩行者の動線がなく、市庁舎前で止まってしまっている。

委員長：国道を渡る方策として、例えば横断歩道とか計画はないのか。

事務局：協議はこれからですが、両側に信号があるので、設置は厳しいと思われます。まだ具体的な案はありませんが、にぎわい通りからの歩行者の動線については今後内部でも検討していく予定です。

委員長：緑化や植栽などは計画されているのか？

事務局：計画はあります。

委員長：やはり、市役所との連携がないと、今のままだと思うので、その辺をうまく考えていただきたい。

委員：花と木をうまく使ってほしい。市役所は観光資源にはならないと思うが、街中とうまく連携させて、市役所に行ってみようと思わせるものにして欲しいと思う。

(3) 市民サービス窓口について

事務局：資料-6の説明

委員長：現在深谷市としてはワンフロア型に近い窓口形態を採用しているということだが、これを踏まえて、新庁舎における窓口形態について意見を頂きたい。

委員：ワンストップサービス型の場合、対応する職員に対して、総合的な教育をしていくということか？

事務局：総合的な窓口サービスを提供するためには、対応する職員が多岐に渡る知識を持っていないとこなせないという実情があります。深谷市では、そこまでの対応はしてなく、手続きによっては職員が交代して対応しているケースがあります。この場合、対応する職員が変わるときの時間的なロスで、市民の待ち時間が長くなってしまう場合もあります。

委員長：窓口の流れが分りやすければ、市民としては多少の待ち時間があっても我慢できる。あっちこっちの窓口に振られたり、手戻りがあったりすることが、市民にとって負担と時間を無駄に過ごすという感覚が生まれるのではないか。

委員：紙であったり、コンシェルジュでの対応でもいいが、人間ドックのように手順を示せないか？また、順番待ちの状況を誰かがコントロールして、順番を多少前後させてスムーズに流れるようであれば待ち時間の解消につながるのではないか。

委員：一番窓口で忙しく、対応に時間がかかる窓口は何処か？

事務局：資料がないので、明確なお答えはできませんが、転入転出がその一例です。転入転出はある程度対面してお話を聞きながら行うので時間を要しますし、窓口で市民が集中すればその分待ち時間が増えることとなります。

委員長：動線が大事であり、まず総合案内へ行き、そこから総合窓口に行く流れを上手く検討してもらえれば、待ち時間の解決に向かうと考える。

委員：やはり、良くなったといわれるのは、今まで以上に手続きが早くなったと思わせることである。

委員長：早くするために ICT を上手く使ってほしい。ICT を使うことが先にありきではない。

委員：業務改善の意味でも、時間がかかるサービスをもっと分析されてはどうか？
手続きは提出書類の確認と照合が殆どだと思われるので、お互い事前に確認できるようなシステムを作れば、お互いコストをかけずに済むのではないか？今後マイナンバー制度が進めばこういったシステムを期待できるのかも知れないが。

委員長：手続きの時間と待ち時間をいかに減らすかが重要であり、時間の短縮を念頭に入れて検討して頂ければ、どの窓口サービスのあり方でも良いと考える。

以上

4. その他

次回の委員会について

第4回

◇開催日程：平成27年 9月30日（木）13：30から

◇場所：深谷市本庁舎3階委員会室

5. 閉会

〔配布資料〕

- ◆ 次第
- ◆ 資料 1 第 2 回有識者会議で頂いた意見について
- ◆ 資料 2 深谷らしさを活かした新庁舎整備について
- ◆ 資料 3 中心市街地活性化を見据えた庁舎整備について
- ◆ 資料 4 市民交流・協働スペースについて
- ◆ 資料 5 配置案①、配置案②
- ◆ 資料 6 市民サービス窓口について
- ◆ 別紙 市民アンケート中間結果（H27.8.17 時点）【庁舎に求める機能抜粋】